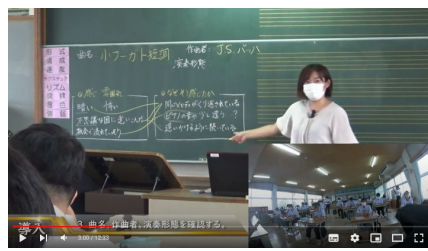
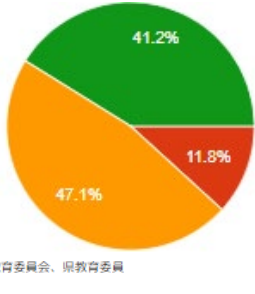


令和4年度 チャレンジICT アンケート集計結果

- 実施日 令和4年9月27日(火)
- 授業者：えびの市立加久藤中学校 橋爪 杏佳
- 校種：中学校 学年：第2学年 教科：音楽 単元：「多声音楽を味わおう」
- 目標
 - ・ フーガ形式を聞き取り、曲の面白さを味わおう。

アンケート集計期間 令和4年10月17日(月)～11月17日(木)まで

アンケート回答者割合

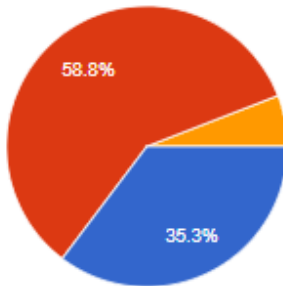


YouTube 動画視聴回数
(令和4年11月17日まで)
158回

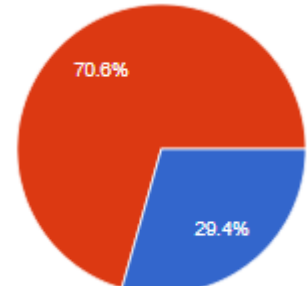


宮崎県教育研修センター
Miyazaki Prefectural Center

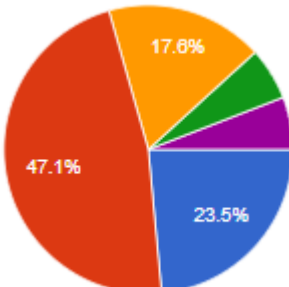
① (ICT活用に関して) 児童・生徒の**意欲**を高めるために効果的な活用であったか。



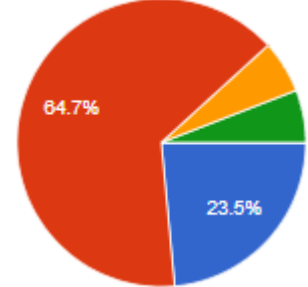
② (ICT活用に関して) 児童・生徒の**理解**を高めるために効果的な活用であったか。



③ (ICT活用に関して) 児童・生徒の**表現や技能**を高めるために効果的な活用であったか。



④ (ICT活用に関して) 児童・生徒の**思考を広めたり深めたり**するために効果的な活用であったか。



○ 今回の授業を見られて、ICTの「効果的な活用」についてご意見・ご感想等をご記入ください。

効果的な活用を考えて授業をされているので、参考になりました。私自身がまだ不慣れであまりICTの活用ができておらずこれからは積極的に取り入れていきたいが、最初は試行錯誤な授業になると思うので、徐々に参考となる動画などを見ながら、技術を上げていきたいと思えます。

黒板の部分までICT化できるとより効果的だと感じた

素晴らしい発想で授業に盛り込んでおり、素晴らしいと思えます。この授業をするためにどれだけの労力がかかり、その労力に見合った結果であったのか聞いてみたい。

音楽の授業で行われていた楽譜に書き込んでいく活動は、紙だと色をつけてやり直すことは難しいが、ICTだと消して何度もやり直せるのが良いと思えました。

積極的に活用していきたいと思った。

全てICTというわけではなくきちんと板書されているのも良いと思った。

ICTを使うことで楽譜へのマーキングを修正したり、他の生徒と共有できる場所は有効だと感じました。1つ提案です。楽曲の鑑賞を一齐放送でみんなで行っていましたが、あれを個別にしてはどうでしょうか。一人1台のタブレットの魅力は個別化にあります。一人一人ヘッドフォンやイヤホンで個別に聴くと、再生やストップ、巻き戻しなど個人のペースで進められます。

音符とタブレットで聴き、楽譜に印を付けて、発表時に見ることが出来ることで、大人数でも友達の考えがわかりやすいのではないかと思います。大変素晴らしいICTの使い方だと思います。

楽譜への書き込みで、記入や削除を繰り返し行えるようICTをうまく活用されていた。その部分が表現や技能を高める一助になっていると感じました。専門教科が音楽ではないため、目標の「曲の面白みを味わおう」に合わせた、生徒の感情の導き方についての指導法がわからないため、教科の特性に合わせたICTの効果的な活用が浮かびません。ただ、文科省はICTの活用場面として「一斉学習」「個別学習」「協働学習」の3つ（ネットで検索してみてください）を示していて、これが参考になるのではないかと思います。授業展開として、感想を発表する一斉学習の後にすぐにグループ活動になっていたの、その前に個別学習として個人で端末を使い思考を深める場面を入れると良かったのではないかと感じました。

大変勉強させていただきました。ロイロノートを活用しての楽譜の共有については、本時の動画を視聴する限りでは、まだ可視化するためのツールとして使われているような気がしました。今後は、生徒が思考するためのツールとして活用できるようにすると可能性がもっと広がると思います。

ICTが知識や思考を可視化するに効果的に使われていたと思います。表現や技能という点では、今回の内容では難しかったかと思いますが、学ぶ内容（実技等）によっては、ICTの活用が子供の可能性を伸ばす授業になるかと思うので、そんな音楽の新しい授業も見たいと思いました。ありがとうございました。

音楽科の学習では、専門用語が多く登場することや音楽への興味関心の個人差などもあって、自分の考えを表現することが難しい部分もあるのかなと思います。そんな中で、ロイロを使ったグループワークでは、主体的に取り組む様子が見られたと思います。せっかくなので、最初の曲を聴いた感想を、テキストマイニングで共有したり、ロイロに書いたことを生徒さんが自分ので説明したりすることで、教師が話す時間<生徒が表現する時間の授業によりなっていくのではないかなと思いました。

音源を聴きながら楽譜を見て進めることは良かったと感じました。

ロイロノートを使って、楽譜を配信してグループ協議をした結果を大型モニターで共有することで、生徒たちの活動のしやすさ、情報共有のしやすさが向上して、生徒が無駄なく学習に取り組むことができています。動画では少しわかりにくかったのですが、グループ協議の際に、生徒たちはそれぞれのタブレットで繰り返し曲を聴くことができていたのでしょうか。そうであれば、グループで曲を聴きながら意見を出し合ったり、時には曲を止めて何度も気になるところを聞き直したりすることで、協議が深まったことだと思います。今後も、「効果的な活用」への挑戦を継続してください。

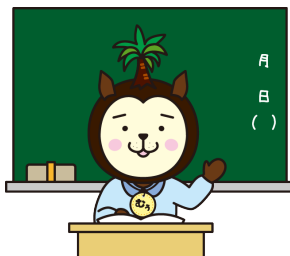
ICTを活用することで、生徒一人一人が、自分のペースで、楽譜と照らし合わせながら音楽を再生し、主題について考えることができていたと感じました。

楽譜の全てをロイロノートで分割して送ったという所が「チャレンジしているなあ」と感じました。ただ、生徒が個別で音で聴いて確かめるには不便ではないかとも感じます。（ロイロの上で「動く楽譜」や「鳴る楽譜」を送り合えるように改良してほしいものです…）せっかくなので楽譜を送付したのなら、思い切った音なしで楽譜に印をつける活動に専念させた方が良かったのではないかと思います。（主題部の譜例を楽譜の前につけておく等差が探させたいパターンを予め視覚的に示す必要はあると思いますが…）そして次の活動で楽譜を全体に投影しながら同時に音楽をかけ「今どこを鳴らしているのか」をリアルタイムでポインターなどで指し示しながら、自分で印をつけた箇所が適切だったかどうか、答え合わせするという感じで進めた方が、生徒は思考をスッキリ整理できるのではないかと思います。貴重な機会をいただきました。ありがとうございました。

生徒の興味関心を高める点では効果的であり、グループの意見発表のアイテムとしても役に立っていたと思う。ただ、動画からは、ロイロノート上で可視化した旋律の重なりについて意見交換の様子がわからなかった。また、グループにこだわらず、多数と意見交換を行いながら自分の考えをまとめていくような授業にもチャレンジしてほしい。



(回答されたアンケートをそのまま掲載しております。)



宮崎県教育研修センター
Miyazaki Prefectural Center

○ その他

私も受けてみたいと思う音楽の授業でした。音楽とICTは相性が良いように思います。鑑賞、調査、分析、作曲、演奏、発表等いろんなところでタブレットが活躍すると思います。作曲と演奏など今まで技術的にハードルの高かった創作的な活動にチャレンジしてもらいたいです。今後の活躍を期待しています。

積極的に授業を視聴聴聞させていただき、大変参考になりました。上でも述べた3つの場面は全教科に共通するものと考えていたので、それを改めて認識することができました。大変参考になりました。今後も積極的にチャレンジされてください。ありがとうございました。

まずはこの取組にチャレンジしたことが大変すばらしいと思います。

今後の音楽科におけるICT活用に関して、教科調査官の河合先生は、次の4点についてお話をされていました。

- ・ ねらいを明確にして活用を図ること。
- ・ 小中学校の連続性を図ること。（中学校は、小学校でどのような活用が図られているのかりサーチが必要である。）
- ・ 指導しやすさ=学びやすさ ではない。
- ・ 生徒が自ら活用を考えることが重要。 参考にしていただければと思います。

選択肢にあてはまるものがなくつけるのに戸惑いました。「少し思う」につけた項目については「そう思う」のニュアンスで受け止めていただくと幸いです。③の発問について、本題材は鑑賞領域なので「表現や技能を高める」場面はなかったかと思います。必要ないのではないかと思います。

橋爪先生が、採用2年目で、このようなことにもチャレンジされて、しっかり成長してきていることを感じました。これからも頑張ってください。

